

# 神森 7度目の頂点

## 全国中学体育大会

全国中学校体育大会は21日、各地で行われ、ハンドボール男子の神森が準決勝で柏屋（福岡）に24-23で勝利し、決勝は39-29で西中原（神奈川）に快勝して4年ぶり7度目の全国一に輝いた。

## 春夏2冠、2度目快挙

た。春の全国選手権に続く優勝で、春夏2冠も4年ぶりで優勝では2度目の快挙を成し遂げた。軟式野球の東風平は準決勝で静岡翔洋に0-2で敗れたものの、13年ぶりの全国3位となった。相撲は浦添が8強入り。準々決勝敗退となったが、5位表彰を受けた。バレーボール男子の宮里は決勝トーナメント1回戦で敗退した。（1面に関連）



準決勝 神森―西中原 最を得点を挙げるなどチームを引っ張った神森主将の新垣瑛太郎（21日、北海道・釧路アリーナ）（上）ハンドボール選手（下）

## 一戦ごと成長 新たな歴史刻む

初戦から準決勝戦、ミスなく快勝

六（ハンドボール）

（国体アリーナ）

神	森	24	1212	23	柏屋
神	森	39	1821	1613	西中原
		29	1613	29	浦添

（※は4年ぶり7度目の優勝）

▽男子準決勝

険しい道のりを打開し、神森が春に続く全国制覇を成し遂げた。初戦の2回戦は延長戦の末の勝利。準々決勝は2点差で白星をつかみ、準決勝は1点を奪う接戦を勝ち取った。戦うことで成長したチームは、決勝はミスもなく快勝した。主将の新垣瑛太郎は「目標にしていた全国制覇が2回もできた」と涙を弾ませた。今大会の初戦では出だしの感さが露呈した。得意とする堅守からの速攻が機能せず引き離された。後半に持ち直し、延長につなげて逆転勝利をつかんだ。外間優志は「諦めたくない気持ちがさらに大きくなった」と言う。接戦の末の勝利がチームを大きくした。

準決勝は終始1点を争う展開になった。残り2分。ここまで懸命な守りでもり立て、チームが信頼を寄せる新垣秀斗の守備からこぼれ球が生まれた。新垣が床に飛び込み、さらに「ほれたボールを外間がつかわり」と一気に走り抜けて、速攻で決勝点を奪取った。

### ハイライト

決勝は序盤から主導権を握り、優位に試合を進めた。外間は「それまでの戦いを自信に、決勝は出だしがとても良かった」と中学最後の試合で喋らないチーム力を発揮できた。「家族と同じくらい過ごした仲間と勝って最高にうれしい」と感極まった。

新垣は「3年生20人、一人も諦めずここまで来られた。苦しかったけど最後までを強くプレーできたと思う」と支えてくれた仲間感謝した。春夏2冠は4年ぶり、優勝2度目の偉業。チームの結束力で強豪・神森の新たな歴史を刻んだ。（謝花史也）